目標林型のイメージと管理方法

2023.5.2

レクリエーションゾーンイメージ

区分	小区分	目標林分	管理方法
落葉広葉樹林	レクリエーション	高木林型のゾーンとし、シンボルツリーを保全する。 活動しやすい明るい空間とする。	適宜間伐し広々とした空間を確保する。 下草刈りを徹底し安全を確保する。（年数回） 枯れ枝や周辺の枯れ木に注意し、除去する。 ナラ枯れ枯損などを考慮し将来の樹を植樹し育てる。

環境林ゾーンイメージ

区分	小区分	目標林分	管理方法
落葉広葉樹林	環境林	自然観察や景観を楽しむ空間とする。 多様な樹種の育成を図る。 高齢木はゆっくりと若返りを図る。	・高齢林は可能なものは適宜伐採し、ギャップが生じれば苗木（クヌギ、コナラなど）を植栽する。 ・亜高木・低木の落葉広葉樹も適宜保全する。 ・下草刈りは年１回程度の高刈りとする。 ・常緑樹も低木管理しながら見本的に一部残す。

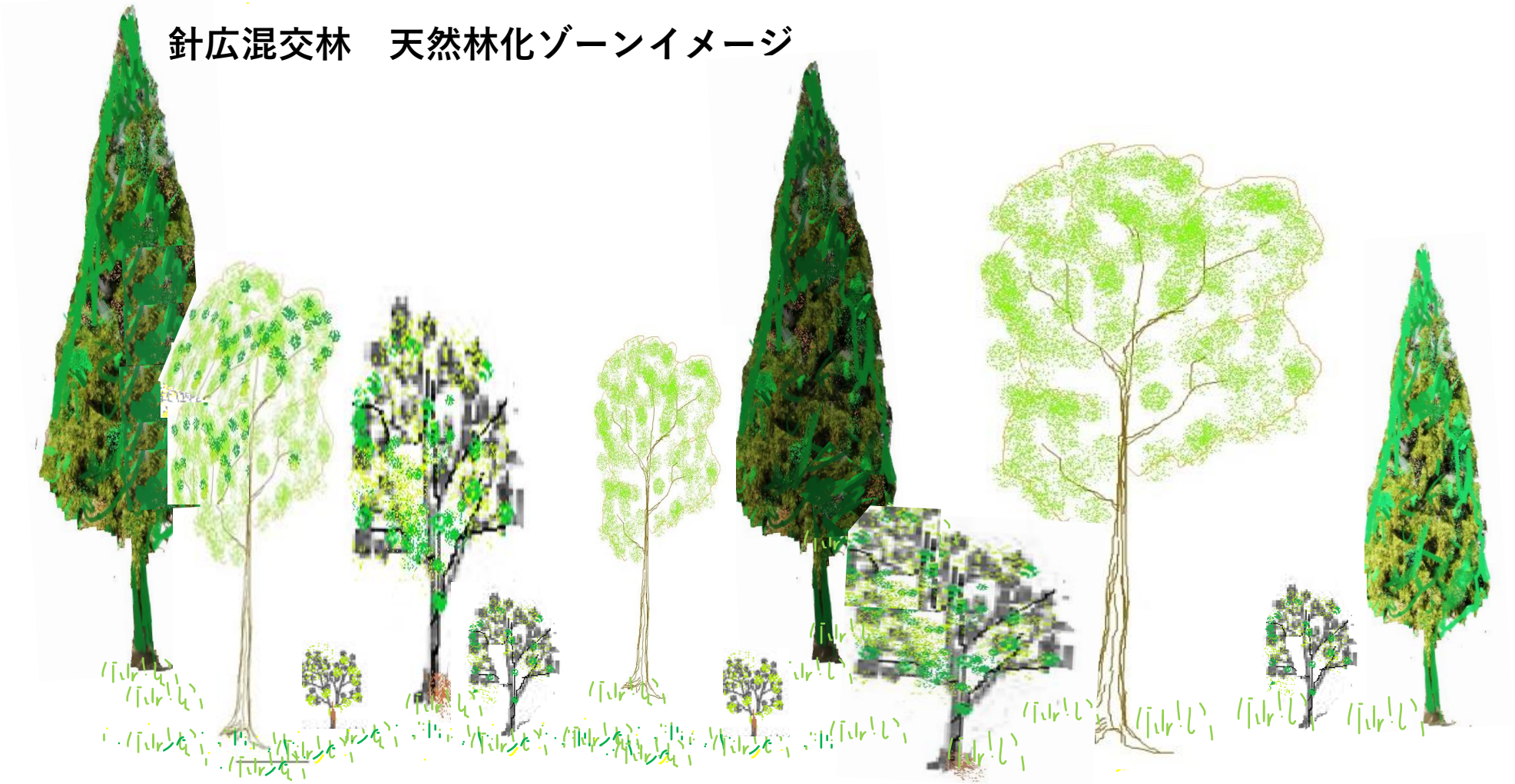
薪炭林（生産林）ゾーンイメージ

区分	小区分	目標林分	管理方法
落葉広葉樹林	薪炭林	15年から20年で萌芽更新させる薪炭林に改変していく。 手のかからない薪炭林を目指す。	・小規模皆伐し、クヌギ・コナラの苗木植栽、実生苗保育を行い、さらに萌芽更新、種子散布、天然下種更新を期待する。 ・母樹は適当な本数を残す。 ・一部区域はスダジイ、シラカシ中心の苗植樹により整然とした常緑樹薪炭林を作る。 ・それ以外の雑木は除伐する。 ・苗が十分な大きさになるまでは下草刈りを年数回行う。

広葉樹混交林　天然林化ゾーンイメージ

区分	小区分	目標林分	管理方法
広葉樹混交林	自然遷移ゾーン	景観を楽しむ空間とする。 多様な樹種の育成を図る。 生物多様性、水源涵養、地球温暖化防止の機能は発揮する。	・ギャップが生じれば苗木（クヌギ、コナラ、スダジイ、アカガシなど）を植樹する。 ・亜高木・低木の落葉広葉樹も適宜保全する。 ・将来的に天然林化を目指す。 ・実生苗を育てるため下草刈りは高め（10cm～20cm）に行う。 ・アズマネザサは極力抑制するが、その他の下草は保全する。アオキ、ヒサカキなどは他を被陰し下草等の生育を妨げるものは除伐する。

針広混交林　天然林化ゾーンイメージ



区分	小区分	目標林分	管理方法
針広混交林	自然遷移ゾーン	針葉樹と常緑広葉樹・落葉広葉樹の混交林 多様な樹種・樹齢・樹高の樹が生育することにより生物多様性、水源涵養、地球温暖化防止（CO2吸収）の機能を発揮する。	多様な樹種・樹齢・樹高の木本及び草本を育成する。 アズマネザサは極力抑制するが、その他の下草は保全する。アオキ、ヒサカキなどは他を被陰し下草等の生育を妨げるものは除伐する。 将来的に天然林化を目指す。

参考

写真：草本植物が多い広葉樹天然林

下草が育つなどで、隙間の多い森林土壌が保たれている場所では雨水を土の中に浸透させやすくなります。

水源の森林づくりガイドブック
林野庁　2019.3

参考

写真：高齢スギ人工林

低木層と草本層が発達しており水源涵養機能が高い状態です。

水源の森林づくりガイドブック
林野庁　2019.3